

緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション NGOの動画広報と人権

■ 要旨

近年、人道支援における広報活動では、SNS 等への波及効果の高い動画を活用するケースが増え、その効果的な活用方法が注目されています。一方で、動画制作・配信の過程で、支援対象者の尊厳や人権を十分に尊重することが求められています。本セッションでは、動画を活用した広報活動の現状と課題を検討し、実践的な事例を通じて、人権配慮の視点を取り入れた広報のあり方を考察します。さらに、NGO の行動規範に基づくガイドラインの必要性や、その適用方法についても議論を深め、今後の広報活動の質向上を目指します。

セッションの前半では、動画広報という枠のなかで、視聴者視点に立った時マスコミ報道とNGOの広報の違いがわかりづらいという点に鑑み、広報の役割、マスコミとの違いはどこにあるのか、そしてそれをどのように示せるのか、また NGO の広報における人権配慮はどのようにあるべきか、そしてそれをどのように担保しているのかなどについて事例を挙げながら考察します。

セッション後半では、現代の広報に欠かせないSNSをどのように利用し、どういった点に注意しているのか、また動画広報のリスクと有用性について事例を挙げながら考察、議論します。そのうえで、広報における行動規範のガイドラインの必要性について議論を深めます。

■ 略歴

【登壇者】

小林深吾 / こばやししんご

一般社団法人ピースポート災害支援センター 理事／プログラムオフィサー

臨床心理士／公認心理師。国際 NGO ピースポートの船内運営・企画に携わりパレスチナ難民支援や核廃絶など平和教育プログラムを担当。東日本大震災では、発災直後から先遣隊の一人として宮城県石巻市に入り、主に行政や自衛隊、社会福祉協議会、各 NPO・NGO 団体との渉外業務を担う。その後も現地責任者として長期的な復興支援活動を実施。広報・ファンドレイジング担当。

山崎琢磨 / やまざきたくま

NPO 法人アクセプト・インターナショナル コミュニケーション局長

大学在学中の 2016 年に当法人に参画後、ケニアやソマリアにおいてギャングやテロ受刑者の脱過激化・社会復帰支援など主に海外の現場での取り組みに 7 年半にわたり従事。現在は日本で賛同の輪を広げるべく、広報ファンドレイジング活動の統括や講演活動などに取り組む。

近藤史門 / こんどうしもん

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン コミュニケーション部カメラマン

新卒で就職した NGO を通し 3 年間エチオピア駐在員として活動。その間に NGO の持つ発信力の可能性を感じ、2020 年より現職にて NGO カメラマンとして活動する。主に海外人道支援の現場撮影と発信を担当し、国内外の大規模災害時にはレスキュー隊に帯同し出動している。

【コメンテーター】

三宅隆史 / みやけたかふみ

教育協力 NGO ネットワーク事務局長、立教大学文学部特任教授(成人学習・社会教育論)、シャンティ国際ボランティア会(SVA)教育事業アドバイザー、緊急人道支援学会監査役、開発教育協会理事。ミャンマー難民キャンプ、アフガニスタン、ネパールで教育開発・人道支援事業に従事した。著書に『国際協力 NGO による持続可能な開発のための教育－SDGsのための社会的実践を通じた学び』(デザインエッグ社)等がある。

【ファシリテーター】

森山俊輔 / もりやましゅんすけ

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 渉外広報部副部長

フジテレビで 30 年以上にわたり主にニュース記者、報道番組プロデューサーを務めた。国内外で数多くの災害現場を取材したが、第三者の視点でなく当事者の側に立って発信したいと考え、NGO の世界に。能登半島地震では 1 月 3 日から被災地に入り、1 年間で 7 回、20 本以上の動画制作、発信した。

■ セッションの流れ

【冒頭】

・広報の行動倫理について 三宅隆史

【前半】約 40 分

- ・マスコミと広報
- ・人権をどう守るか

質問&討論

【後半】約 40 分

- ・SNSとどう向き合うか
- ・動画広報のリスク 動画広報の前向きな使い方

質問&討論

■ その他

会場からのご質問、ご意見を広く求めます。